

## 第 1 回協議会における主な意見のまとめ

### (1) これまでの経過と今後の課題、および今後の協議会の進め方について

#### <今後の協議会の進め方について>

- ・ 基本方針の 1~4 の取り組みを一度に検討していくことは非常に難しい。個別に検討していくと時間がなくなってしまうのではないかと心配。
- ・ スケジュールが非常に短く、再生方策を短時間で検討できるか心配。
- ・ 具体的な施設の名前を挙げると、市民から意見を得やすいので、ロードマップには施設名を出してもいいのではないかと。
- ・ どの施設を優先してやっていくのかをある程度出さないと計画が進まないのではないかと。
- ・ 1 つの施設だけでなく、市全体として総合的に見て、不足する財源をどのようにカバーしていくのかという話をしていく必要がある。
- ・ ロードマップの組み立て方と内容についての議論が非常に重要。

#### <再生方策について>

- ・ 再生方策には東村山独自の新しい手法がほしい。
- ・ まちのイメージアップにつながるような攻めの再生をしていただきたい。そのためには、どういうまちにしていくのかというコンセプトが必要。そこから再生の作戦が得られるのではないかと。

#### <市民ワークショップについて>

- ・ 施設再生は長期的なスパンの問題なので、ワークショップでは、若い世代をたくさん呼んで、様々なアイデアや知恵を出してもらえよう工夫してほしい。
- ・ ワークショップは具体の企画をどうするかということが非常に大事。

### (2) 公共施設のあり方や施設再生の考え方に関する意見

- ・ 基本計画策定という段階においては、廃止する施設をピックアップしていった方がいい。そのかわり、再生方策を適用することで利便性が高くなり代替えができるということを市民に周知していくべき。
- ・ 毎年 10 億円ずつ足りなくなるということが明確になっているため、10 億円を補填するためにどのように財政の収入を上げていったらいいのかということを考える必要がある。それが難しいということであれば、建物の延命化のための投資は抑制すべき。
- ・ 還元施設という役割が十分果たされている施設もあるため、市民の利益者負担の部分も見直すことも必要ではないかと。
- ・ サービスの魅力向上や利用促進のために、もう少し具体的な方針を作っていくことが必要ではないかと。
- ・ 施設が統合されたり複合化されたりするのであれば、きめ細かな交通網が必要。

- ・ 少子化や人口減少問題を踏まえると、リタイアした元気なお年寄りが弱っているお年寄りをサポートできるような体制も重要。
- ・ 住民を定住化させるには魅力的なまちづくりが大事。地域性や場所性、どこまで施設をコンパクトに使って維持できるかということも重要になる。
- ・ 学校は面積も大きく耐震化もされているので、学校を利用したモデル事業を検討した方がいい。
- ・ 指定管理者制度などにより民間の活力を導入することで施設のサービスが向上し利用者を増やすことができる可能性がある。
- ・ 「機能と建物の分離」という考え方は非常に重要。経営を再建するために資産を圧縮しつつ、お客様に対する価値は維持するということは、民間でも行政でも基本的な課題である。機能を最大限に維持して、さらにより高めるためにはどうしたらいいかということを検討することが重要。
- ・ 公共施設には、建物の耐久性もあるが、政策の耐久性もある。施設は必ず何かの政策を実現するためにできたものだが、20年、30年と経過した後には、この建物は何を実現するためにある施設なのかということについて、大本の政策を見直すことが必要になってくる。施設を建てたときと現在では地域の状況も変わっているため、地域毎の見直しも必要になる。
- ・ （老朽化して）応急措置が必要な施設に対しては、最小限でも対応していかないと市民から理解を得ることは難しい。